



ベゴニア ～「わかった」「できた」「来てよかった」 の笑顔あふれる補習校～



中学部3年生のみなさんありがとう!! ー全校「朝の読み聞かせタイム」ー



先日、中学部3年生の生徒が全校各クラスで本の「読み聞かせ」をしてくれました。「読み聞かせ」と言っても、みんなが楽しめるように分かりやすいように行うのは、大人でもそう簡単なことではありません。

聞くとところによると、中3生の生徒たちは、2週間ほど前から読む練習をして、中には絵本の見せ方やページのめくり方など、見る人聴く人の立場を考えながら準備を進めてきてくれたようです。そのおかげで聴くみんなは興味津々の様子。朗々と語る中3生の音読に耳を傾け、真剣な眼差しで絵本の世界に浸っているようでした。

そして、何より読み聞かせが終わったあとの中3生のホッとした姿が印象的で「緊張したけどみんな聴いてくれてうれしかった!」「練習しておいてうまくいったよよかった!」などという声がありました。

また、読み聞かせをしてもらった後輩たちからは「本を読んでもらって楽しかった。また読んでほしいです」「中3生は本を読むのがとても上手だった。読んでくれてうれしかったです」という感想がたくさん寄せられました。

絵本を読むのは大人になっても楽しいもので、語彙力が aumentare たり想像力や共感性が育まれたりする効果があるとされます。中3生のみなさん、本当におつかれさま! そしてみんなのためにありがとう!!

さあ、脱いだ靴・・・どうする? ー学校でのある一場面からー



先日、体育館で学習している子どもたちの様子を見に行くと少し気になる場面がありました。体育館の前で脱いだ靴が乱雑に置かれていました。日常、子どもたちがどうしているのか分かりませんが、日本では他人の家に上がる時は、玄関で脱いだ靴を揃えておくのは礼儀の一つと考えます。ここは日本の学校。その視点から考えると、家庭ではもちろんこと学校でも子どもたちにそれを考えさせるのは大切なことと捉えています。

今回、私はあえて子どもたちに何も言わずに私が靴を揃えておきました。学習中でしたので子どもたちは誰がどんな意図で靴を揃えたのか、よく分っていないかもしれません。ただ、授業が終わったあとに揃えておいてある自分の靴を見て、子どもたちがどう思ったのか気になるところです。頭ごなしに叱ったりやり直しをさせたりすることは簡単です。さて、考えてくれる子どもたちはどれぐらいいるのか? 一度「待って」みようと思います。

【今後の予定】

HP 上では非公開

